
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター

センターだより 第68号（通巻第135号）

2008年4月30日
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL：055-220-8325，FAX：055-220-8790
E-mail：jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp
URL：http://www.cer.yamanashi.ac.jp/

■ センター長就任あいさつ

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター長 石川 啓二

本年4月よりセンター長に就任しました石川です。私とセンターとの関わりについて、簡単に述べてみたいと思います。私の記憶によれば、本学でセンター設立構想検討委員会ができたのは昭和63年で、白井尚委員長（教育学）の下で、委員は山田良一（心理学）、石田純（教育学）、小川邦彦（英語教育）、それに私でした。私はセンターが先行設置されていた福島大学を白井委員長らとともに見に行ったりして、設立構想を温め、白井委員長の指示に基づいて、「地域社会とともに進める学校教育実践の確立」という理念の下で、概算要求の書類を作成し、各部屋の見取図や設備配置図等も描きました。文部省の設置承認の内示を得たのが翌平成元年1月で、平成に改元されるとともにセンターは誕生したので、今年ちょうど二十歳の成人式？を迎えたこととなります。当時は「教育実践研究指導センター」と呼ばれていて、まだ総合の二文字は付いていませんでした。

センター設立に深く関わった五名のうち、白井先生は80歳を越える今もお元気ですが、二名は既に故人となり、本学に在職中の者は私一人です。そういう意味で、今回のセンター長就任は、私にとっても大変感慨深いものがあります。「地域社会とともに進める学校教育実践の確立」というセンター設立の初心に立ち返って、センターの発展に微力を尽くしたい所存ですので、皆さま方のご協力をぜひよろしくお願い致します。

■ 宜しく願いいたします。

教育実践研究部門教授 角田 修

この度、山梨大学と県教育委員会との人事交流による派遣教員として、山梨県総合教育センターから附属教育実践総合センターにお世話になることになりました。新しい環境の中で戸惑いの連続ですが、センター長の石川先生はじめスタッフの皆様や大学関係者の皆様に支えられながら、仕事がスタートいたしました。どれだけ自己の任務が果たせるのか少々不安ではありますが、一生懸命頑張りたいと思います。

今、学校教育は多難な状況にあります。学校教育が抱える課題の一つとして、「教員の資質能力の向上」が大きく取り上げられ、採用前の教員養成が非常に重視されています。

このような状況の中で、教職を目指そうとする学生の皆さんとともに、教育のあり方や教師としての生き方について考えたり、学校教育に関わる学びを深めたりすることができたらと思っています。そして、学生の皆さんが、教師としての情熱をはぐくみ、少しでも実践的な力量を身に付けられるように、努力して参りたいと思います。

どうか、皆様方の御指導を宜しく願いいたします。

■ センターのスタッフに加えていただきました

教育臨床研究部門教授 谷口 明子

この4月より教育実践総合センターの教育臨床研究部門に参りました谷口明子でございます。専門は教育心理学・発達臨床心理学・特別支援教育（病弱）です。長年続けてまいりました教育実践研究に加え、このたび緑豊かなこの甲府の地にご縁を得て、地域の教師支援や教育相談事業に本格的に取り組む機会を得ましたことを大変幸せに思っております。

教育をめぐる諸問題が深刻さを増す昨今、本センターの役割の重要性は増していくばかりかと思えます。「人は城、人は石垣」と、人を育てることの大切さを説いた信玄公ゆかりの地ならではの教育支援を展開できますよう、微力ながら努めてまいる所存でございます。どうぞご指導、ご協力を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 就任のご挨拶

教育実践総合センター客員教授 瀧田 二三雄

桜の花も散り、木々の芽吹きが大変美しい季節となって参りました。荒川沿いの散歩道の彼方に、鳳凰山や甲斐駒ヶ岳が澄み渡った空に綺麗に映えています。

さて、私は、長い教員生活にピリオドを打ち、この4月から第2の人生をスタートさせることとなりました。学校一辺倒の生活でしたが、これからはこれまで積み上げてきた経験をもとに、微力ながらも社会に貢献できたらと考えています。現在、その一つとして、高齢者の皆さんの学習支援や、卓球協会の仕事を通してのスポーツ支援に携わっています。いつまでも輝きを失わないよう御支援したいと思っております。もう一つは、若い先生方の育成に役立ってみたいという在職中からの思いに関わっています。教育実習生を前に、考えを伝えてきましたが、これからは、客員教授として若い皆さんのため少しでもお役に立てたらと考えています。

経済が停滞し先行き不透明な中、教育においても様々な課題が山積していますが、スタッフの皆さんの御助言を得ながら、少しでもよい解答に結びつけたいと思っています。どうぞよろしく御願います。

■ 就任のご挨拶

教育実践総合センター客員教授 雨宮 亘

本年4月1日付で、永田徹先生の後任として、主として小中学校の教育活動にかかわって仕事をさせていただくことになりました雨宮亘です。この3月まで、山梨市内の中学校において仕事をさせていただいておりました。

学校教育を取り巻く状況には、実に様々な課題が山積しております。そのような中、本センターの設立趣旨にもありますように、教育人間科学部と附属学校園が一体となって、学校教育にかかわる様々な実践的な課題を県下の教育関係機関と連携・共同して研究し、その成果を学校教育の実践や教師の養成・研修に役立てていくことは、非常に意義のあることでもあります。私には、このセンターの設立趣旨に添って、連携のためのコーディネーター的な役割を果たすことがもとめられていると考えています。

今日の公教育に求められていることは、変化の激しい時代にあって、未来を切り開く優秀な人材の育成であり、またグローバルな感覚を素養として持ち得る人材の育成であります。このために、なんといっても教師自身がこうした視点に対して敏感であらねばなりません。教師が、自らの実践的な課題と向き合いながら、研究と修養につとめることができるようお手伝いをしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

■ 「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談」に関するお知らせ

相談スタッフを募集しています。新しく着任された先生や未登録の先生方は、この機会に是非ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。新規登録用紙は、教育人間科学部総務グループ入口はいつて左手のレターケース（総務グループ提出箱）の教育相談専用ボックス（青いラベルです）にあります。ご継続の先生方の再登録手続きは不要ですが、相談日時等変更点がございましたら、5月31日までにご連絡ください。教育相談の実施報告書については随時受け付けております。実施報告書も同上の教育相談専用ボックスにあります。近日中に相談事業の新しいパンフレットを県内の学校に配布する予定です。

また、総合研究棟 3F にございます「教育相談室」（Y-304）をどうぞご利用ください。教育実践総合センター事務室（J号館4階）にて鍵をお貸ししております。なお、月・火・金の午後は教育実践総合センターおよび附属特別支援学校相談支援室が優先的に使用いたしますので、ご了承くださいませ。

ご不明な点がございましたら、センター事務室もしくは谷口までお尋ねください。

■ 「第1回 教育臨床研究会」のお知らせ

昨年度に引き続き、平成20年度も「教育臨床研究会」を開催いたします。本研究会は、特別な教育的ニーズをもっている児童生徒への学級や家庭での具体的支援について考える研究会（年5回程度）です。第1回の研究会は5月23日（金）10時半～12時（於J号館5F多目的室）の予定です。山梨県教育委員会の河西慶仁先生より「山梨県の特別支援教育の推進状況」についてお話し頂き、学習を進めます。参加費は無料です。事前申し込みは不要ですので、ご関心をお持ちの方は直接会場へお越しください。

■ 「第1回 教育相談室連絡協議会」のお知らせ

第1回教育相談室連絡協議会が5月20日開かれます。今年度の事業予定や体制、相談状況、附属4校園への支援等について協議の予定です。昨年度より継続の「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談事業」を本年度も発展的に継続していきます。昨年度からの継続ケースに加え、新年度にはいり、すでに県内の保護者の方から2件新たな相談が寄せられています。教育相談室に関するご意見やお問い合わせはセンターまでお寄せください。

■ 共同利用施設・設備 授業研究演習室（J422）の紹介

教育実践総合センターには、学部や大学院等の授業をはじめとする教育目的や、個人研究、共同研究を問わず研究目的のために利用できる施設・設備があります。

昨年度の教育実践総合センター施設・設備利用委員の加藤一先生に、共同利用施設・設備のひとつである授業研究演習室（J422）の紹介をしていただきました。

利用にあたっては、教育実践総合センター事務室で申請をお願いします。

共同利用施設・設備に入室するにはカードを使います。お手持ちの教職員の身分証明書カードで入室できる設定にしていますが、システムの制約上そのままでは入室できない方もいらっしゃいます。そのような方にはYINSカード（入室カード）を新たに発行しますので、教育実践総合センター事務室（J421）までお問い合わせください。

○問い合わせ：教育実践総合センター事務室

内線：8325

メール：jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp

◆授業研究演習室の紹介◆
ソフトサイエンス講座 加藤 一

教育実践総合センターの授業研究演習室 (J422 室) には、30 人程度までの、授業研究や教材開発、グループ学習、演習、ビデオ編集実習等を行うことができる機器等が整備されています。

概要は以下のとおりです。

● 使用可能な機器の一覧

- ・ Windows Vista 7 台
- ・ ビデオカセットレコーダー (DV、ミニ DV、VHS)
- ・ DVD レコーダー
- ・ 書画カメラ
- ・ タブレット
- ・ プロジェクター
- ・ その他

● PC にインストールされているソフトウェア

- ・ Adobe Premiere Pro 2.0
- ・ Adobe Photoshop Elements 5.0
- ・ Microsoft Office Professional 2007
- ・ 簡易ビデオ編集ソフトウェア
- ・ 語学学習ソフトウェア
- ・ その他

この設備の内、Adobe Premiere Pro 等の PC を使用した映像編集ソフトウェアの概要について紹介させていただきます。

このソフトウェアは、PC 内で、映像類の読み込み・編集・書き出し等の一連の編集作業を行うことができるのを特徴としています。

読み込む映像類としては、ミニ DV テープをはじめとして、VHS ビデオ、8mm ビデオ、DVD ビデオ等の各種媒体、各種ファイルが扱えます。編集に関しては、映像類のトリミングや、トリミングした映像類の並び替え等を自由に行うことができます。さらに、映像類の調整・補正、文字、音楽やナレーションを加えることにより、制作品の質をより高めることも可能です。また、編集作業中でも完成時の作品の完成具合を確認できることから、何度でも再修正が可能です。

編集の完了した映像は、読み込み時に使用したと同種な各種媒体や各種ファイルで書き出すことができます。一例として、このソフトウェアで作成された DVD ビデオは、PC でも DVD プレーヤーでも再生することができることから、使用機器を限定されません。

このように、PC を使用した映像編集は容易な操作で質の高い編集を行うことができることから、皆様の多方面へのご活用をお薦めいたします。